

第 34 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部員会議 議事概要

日時：2022 年 1 月 20 日（木）午前 9 時から午前 10 時まで

場所：愛知県庁本庁舎 2 階 講堂

1 挨拶

大村知事：

本日は、第 34 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議にご出席いただき感謝する。

感染状況は、年末から第 6 波に入ったと認識している。新規陽性者数は、11 月、12 月は 1 日平均が 4 人から 5 人であったが、12 月 28 日に 10 人になり、年末年始の休み中に 10 人台、20 人台になったこともあったが、2 桁であった。1 月 4 日の仕事始め式は 34 人となり、半月経った昨日の 19 日には 2,881 人となった。34 人が 2,881 人に増え、驚異的な感染拡大である。

本日も、聞き取りではあるが、過去最多の 3 千人を超える想定であり、大変厳しい状況である。これだけの急拡大は、オミクロン株の感染力が非常に強いとしても、非常に厳しく、想定を超える拡大状況と言える。

しっかりと抑え込むため、東海三県で足並みを揃えて、まん延防止等重点措置を要請し、昨日、政府の決定があった。これを受けて、本日、本部会議を開催させていただいた。よろしくお願い申し上げます。

感染の特徴については、60 歳未満、50 歳代以下の若者が 9 割で、軽症・無症状者が 98.8%である。指標で見ると、1 日あたりの新規陽性者数はレッドゾーンであるが、入院患者はグリーンゾーンである。しかし、若者が感染し、軽症・無症状であるため、感染が広がりやすい状況であり、そこから濃厚接触者が出てくると予想が出来る。

学校でも、学級閉鎖等を小・中・高、幼稚園、保育園で行っている状況であり、この状況を克服するため、まん延防止等重点措置と、ワクチン接種を加速する。

昨年の 8 月 27 日に一番大きな山があり、最多の 2,339 人であったが、昨日、大きく更新した。8 月末時点も厳しい状況であったが、当時はワクチン接種が進んでいたが、今回は、3 回目のワクチン接種が全く進んでいない。

ワクチン接種率については、一昨日時点で 1.25%と、全国平均と同じで、とても少ない。12 月 1 日から愛知県の医療従事者 27 万人を対象に打ち始めているが、直近の実績で、VRS 登録をした人数が 10 万人に届いていない。これは絶対におかしい状況であり、接種を行っても、VRS 登録をしていただかないと実

態の接種者数が分からない。医療従事者 27 万人は、間違いなく打ち終えていた
だかないといけない。

12 月末で、愛知県内のワクチンの持ち越し在庫は 125 万あり、非常に危機感
を持っている。まん延防止等重点措置で人流を抑制し、時間を稼いで、ワクチン
接種を加速していく。

新規陽性者については、東京が 7 千人、大阪は 6 千人を超えて、人口比で言っ
ても、愛知県よりもはるかに大きな感染となっているが、東海道新幹線で結ばれ
ているこの三大都市圏域の感染拡大を抑えるため、全力で立ち向かっていきた
い。

2 議題（1）新型コロナウイルス感染症対策について

大村知事：

資料 1 について、まん延防止等重点措置の対象区域について色塗りをしてい
るが、東栄町、豊根村が第 6 波の感染者が 0 人であるため外し、残り 52 市町村
を対象とした。

資料 2 は、私からの県民・事業者の皆様へのメッセージについてである。その
うち、4 段落目では、52 市町村の措置区域で、飲食店等に対する営業時間の短
縮、感染防止対策の徹底をお願いする旨の記載がされている。5 段落目では、ワ
クチンの 3 回目接種について、4 月前半までにワクチン持ち越し在庫の 60 万回
分を併せて、555 万回分を用意し、高齢者も一般の方も、接種間隔を 6 か月に前
倒ししてもワクチンはあるため、積極的なワクチン接種を進めていただく旨の
記載がされている。

資料 3 は、まん延防止等重点措置の概要である。期間は 1 月 21 日から 2 月 13
日までの 24 日間であり、特に外出・移動について、混雑した場所や感染リスク
の高い場所への移動や、県をまたぐ不要不急の移動も自粛していただく。また、
協力金について、飲食店のうち認証店については、営業時間が 20 時まで、酒類
の提供なしの場合は 3～10 万円であり、営業時間が 21 時まで、酒類の提供あり
の場合は 2.5～7.5 万円である。非認証店については、営業時間が 20 時まで、酒
類の提供なし、定員は 1 テーブル 4 人までの場合は 3～10 万円である。

なお、オミクロン株の感染者は 8 割以上が 2 回接種した方のブレイクスルー
感染であるため、ワクチンの 2 回目接種を行っても安心できず、ワクチン・検査
パッケージ制度は適用しない。

イベントについては、人数上限を 5,000 人としているが、感染防止安全計画を
作り、個別に協議を行った場合は 20,000 人まで可能とし、今回は定員の 50%ア
ッパーは行わない。

また、1月17日には、経済関係団体宛に通知し、企業には事業継続計画BCPを作り、点検をしていただくことをお願いしている。入院患者は一気には増えていないが、感染者と濃厚接触者が増え、昨日、トヨタ自動車のラインが止まるという事案もあったように、企業活動に大きな影響が出ているため、改めてBCPを作って、点検をしていただきたい。

学校については、時差登校や分散登校をしていただき、部活動や練習試合等はやめていただく旨の内容を、会議後に教育委員会から通知を出させていただく。

ワクチン3回目接種については、接種間隔を6か月に前倒し、医療従事者や高齢者施設等の入所者への優先接種と、医学生、看護学生、警察・消防職員、自衛隊員、幼稚園・保育園の保育士等については、接種券がなくともワクチン接種を可能とする。

参考資料1については、今の感染状況である。再感染者は統計上含めないというのが、厚生労働省の方針であるため、昨日は2,881人であったが、再感染が50人であったため、2,831人と記録している。

参考資料2は病床確保の新たなレベル分類についてである。

参考資料3は、薬局等をお願いをするPCR等検査無料化事業についてであり、現在206箇所をお願いをしている。ここに行けば、無料で抗原キット等での検査をしていただける。中心としてはスギ薬局とウェルシアで、順次募集をしている。予算については、愛知県の薬局3,500件のうち半分が出来るよう計上している。

参考資料4はワクチン3回目接種の前倒しについてであり、前倒し接種を行うため、年末年始に通知を出し、医療従事者、入院患者、医療従事者の同居家族は全員6か月間隔で接種券は後から出す形で接種可能とし、接種者を増やしていく。高齢者と障害者関係の施設利用者と従事者は、12月20日の通知で、ワクチン接種について、6か月間隔で、接種券は後から出していただければいいと通知を出した。一般の高齢者についても、1月7日に前倒しの通知を出したが、一般の方は接種券がないと登録ができないため、接種券がいる。64歳以下の一般接種については、基礎疾患を有する方は病院にかかっているはずであるため、6か月間隔で接種券なしで接種していただきたい。64歳以下の一般の方も、国は接種間隔を7か月としているが、ワクチンを確保したため、6か月間隔で進めると通知を出した。

ワクチンの確保状況について、使用可能なワクチンは4月の半ばまでに5,558,500回分を確保している。接種間隔を6ヶ月間隔に前倒しをして、希望者全員に接種を行うと5,648,000回分が必要であるが、接種率100%にはならないため、十分間に合う。

参考資料5は大規模集団接種会場についてであり、24日から名古屋空港ビル

と藤田医科大学でスタートさせる。31日には、岡崎市で2箇所、2月5日には安城市で、2月7日には豊橋市で開始し、合計6箇所で行う。接種規模としては、1日最大で4,000回を超える数であり、さらに増強していく。

参考資料6-1は大規模接種会場の予約状況についてであり、2か所で17日から予約を受け付けているが、あまり予約が入っておらず、現在6.3%である。これは、接種券が行っておらず番号がないためであると考えられるが、市町村の皆様には、接種券を前倒しで出してほしい。恐らく予約は埋まらないため、空いた枠には、去年と同様、医療従事者に入らない看護学生、医学生、警察・消防・自衛隊、幼稚園・保育園の教務等に、接種券なしでの接種を進めていきたい。去年、大規模接種会場で接種券がない方に11万人に接種したため、その方々への接種を進めていきたい。

参考資料6-2はワクチン3回目接種の状況についてであり、VRS登録がまだ愛知県で94,262回である。12月1日から医療従事者27万人に接種しているが、登録がまだ9万4千しかない。少なくとも20万人以上は接種済みのはずだが、VRS登録をしていないと予測され、これは大問題なので、医療従事者の方にはワクチン接種とVRS登録をお願いしたい。接種率は1.25%となっているが、この割合で人口上位10都道府県の中では4番目であるため、日本全体の3回目接種が非常に遅く、このままではオミクロン株の感染が拡大していく。

参考資料7については、事業継続計画を作っていただきたいという通知を出させていただき、そのための支援策もあるという内容である。

今後ともよろしくお願いしたい。

(有識者・関係団体、政令市・中核市意見)

医療専門部会 長谷川部会長：

感染状況としては、第5波のピークを超えて3,000人に届く勢いで、今後、さらなる感染数の増加が予想されている。

医療現場では、ワクチン接種の効果とウイルス変異の影響により、デルタ株までの状況とは異なっている。酸素が必要で入院を必要とする患者や、重症者数は現時点では多くないが、他の病気で受診される患者がコロナウイルスに感染しているというケースが散見される。オミクロン株の特徴として、ワクチン接種済みの方が、全く症状がなかったが、濃厚接触者となり念のためPCR検査を受けたところ陽性であり、感染を十分引き起こすウイルス量を排出している点がある。また、発熱がなくても感染している場合があるため、自身の感染した意識がない中で、周囲へ感染が拡大していることも考えられる。

一方で、高熱や入院が必要となる患者には、ワクチン未接種の方が少なくないため、今からでも1人でも多くの方にワクチン接種をしていただきたい。

今後の感染対策について、特に、自身の感染した意識がない中で周囲への感染を広げている可能性があるため、誰でも感染するリスクがあることを理解し、同時に、他人に感染を広げないための思いやりのある行動をぜひ考えていただき、マスク等の基本的な感染対策を、もう一度思い起こして行動していただきたい。

現在の患者数の急増がどこまで続くかは予想できない。重症化率が低いとされているが、ワクチン接種ができない免疫弱者や、様々な病気を持っておられる方や、高齢者については、感染者数が増加すれば、重症者数も増加するため、気を緩めることなく対応が必要である。

イギリスでは、1月6日をピークに感染者数が減少に転じている。人口100万に対する感染者数で見ると、1月6日時点で、昨日の日本と比べると15倍の感染割合であったが、直近2週間で約半分の8倍となり、急激な減少カーブとなっている。また、南アフリカでは約3～4週間でピークアウトしているため、愛知県もこの数週間が本当に頑張りどころである。

今回のまん延防止等重点措置は、今後の健康被害を抑えていく上で、重要なステップであるため、ぜひ皆様方のご協力をお願いしたい。

大村知事：

まだ急拡大している状況であるため、最大限の警戒をして対応する。

愛知県医師会 柵木会長：

急激な感染拡大は4度目で、この措置は重要なステップであり、人流が抑えられることは確かである。今の感染の主流は、職場や学校、家庭内感染と言われており、県民の理解を得るためにも、飲食店の営業時間短縮や、飲酒の制限が過去3回の措置によってどの程度抑えられていたかをデータで示す必要がある。

また、飲食業は本当に大変な状況であると実感している。これらの業種の皆様にもご理解いただくため、感染をどの程度抑えることが出来るか、分かりやすいデータが必要である。

オミクロン株については、重症化は今のところ少なく、1月18日時点で入院患者は220人、中等症は39人、重症者は2人というデータが出ており、重症者が2人であることは、感染の様相が相当変わってきているのではと思う。患者についても、今までのとは違うようだ、現場の先生方からの声も聞こ

え、感染力は非常に強く、毒性は弱いと断定して間違いないと感じる。今の感染ペースから、新規陽性者は倍以上が出ることを覚悟しなければならず、今行わなければならないことは、デルタ株とオミクロン株の違いを早く明らかにし、オミクロン株に対応したガイドラインを早急に作ることである。また、指標に感染者数が入っているが、全く実情とかけ離れているため、早急に変える必要がある。

今までは、濃厚接触者のフォローや、感染者の隔離が感染対策の中心であったが、これだけ感染者数が増えると、今までのような対策は実務的に難しく、オミクロン株に対しては感染者の治療を重視する方向に変える必要がある。症状が軽い感染者は自宅で安静にし、急変した場合は直ちに入院・治療を行い、症状が経過すれば速やかに退院し、病床の回転率を上げることが必要である。また、患者の急変に備えて、臨時の医療施設として前に整備した入院待機ステーションも早めに準備する必要がある。

ワクチン接種について、接種を進めていくことが重要である。感染拡大のスピードに追い付けるかは分からないが、感染の重症化予防の観点から、なるべく速やかにワクチンを接種することが大事である。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

愛知県病院協会 伊藤会長：

現在、20代を中心として感染が拡大しているが、比較的重症例が少なく、高齢者への感染の拡大がまだ、至っていないのではないかと心配している。オミクロン株の感染力の強さから、ワクチンの3回目接種を行っていない高齢者に感染が拡大すれば、重症患者の増加に繋がると考えられ、重症病床のひっ迫が一番懸念される。この対応として、ワクチン接種を強力に進めていただきたい。

現在、病院間で、地域や地区毎に、一般医療も含めた病床確保のための役割分担について、協議を進めている。更なる感染拡大が続き、重症でなくとも、新型コロナウイルス患者が増え、一般病床に影響が出ることを心配している。

また、救急医療では、様々な検査でチェックしているが、院内への持ち込みリスクは過去にない程に増大している。クラスターが発生し、地域の医療が機能低下することを、最も心配している。

エッセンシャルワーカーについて、感染力の強さから沖縄のエッセンシャルワーカーの濃厚接触者等が休職し、一般医療が機能低下している状態が報告されている。若年層の感染拡大の抑制という観点から、地域医療機能の低下への対

応がとても重要になる。そのために、あと少し強力な感染拡大予防策が講じられることを強く要望する。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

名古屋商工会議所 田中常務理事：

今回、まん延防止等重点措置が適用され、この数字を見るとやむを得ないが、誠に残念であるというのが、率直な感想である。

飲食、宿泊、観光、これらの業種の事業者の落胆は計り知れない。

新型コロナウイルスが感染拡大をしている間は、ゼロゼロ融資が存在し、事業者は何とか事業を継続し、雇用を守ってきたが、据え置き期間を約1年とする事業者が多く、返済が始まったところに、制限が重なってくると、ますます経営状況は厳しくなると心配をしている。中小事業者にしっかりと目配りをしていただき、迅速かつ十分なお支援をお願いします。

感染対策を徹底することは勿論だが、自宅待機者が増えると、業務が回らなくなることも大変懸念されるため、ワクチンの追加接種を更に進め、経口治療薬の普及に期待している。

出来る限り経済を回すことを強く意識しながら、まん延防止等重点措置が、1日でも早く解除されるということに、全力を挙げて取り組んでいただきたい。

大村知事：

企業の事業継続についても、また引き続き、よろしく願います。

中部経済連合会 小川専務理事：

今回の措置について、経済的な影響は少なからずあるが、必要な措置と考えたい。経済団体としても、時差出勤、テレワークの他に基本的な感染対策を進めていき、積極的なワクチン接種や自らが感染しているかもしれないといった意識を持った行動を改めて徹底していきたい。

また、BCP等の実行など、社会経済活動を維持することについてもしっかりと取り組んでいきたい。

改めて、官民が足並みを揃え、中部3県が連携して協力的に感染対策を実施していくことで、少しでも現在の感染拡大傾向を緩やかなものにしていきたい。

大村知事：

引き続き、テレワーク等の推進もお願いする。

愛知県経営者協会 岩原専務理事：

現在、感染が急激に拡大していることから、企業と連携して感染防止対策を徹底していきたい。

今後、特に3点について早急に対応していただきたい。1点目はワクチンの職域接種の速やかな開始、2点目は非接種者への働きかけ、3点目はBCPについて、企業の方に伺ったところ、企業間で、パンデミックの中での休業期間や復旧のプロセスなど、特にボトルネックとなるところが若干異なってくるため、BCPの提携における調整及び今後の準備を行っていただきたい。

大村知事：

またBCP等についても、何卒よろしく願います。

日本労働組合総連合会愛知県連合会 可知会長：

長期にわたり対応いただいている、医療関係者、保健関係者、県職員の方に敬意と感謝を申し上げます。連合への相談は落ち着いているが、下部組織からたくさん声をいただいているので、今日は3点に絞り報告をさせていただきます。

1点目は、愛知県の11月の定例議会において、介護事業所や障害者福祉サービスの事業所の職員や、一部の医療機関の介護職員に対して、収入を1%から3%引き上げる補正予算の可決に、感謝の声が届いている。しかし、本制度は国の2021年度の補正予算において、今年2月から9月までの措置に伴うものであり、10月以降が未確定であり、今後もこのような状況が続くと予測されるため、引き続き支援策が継続されるよう国への要望・働きかけをお願いしたい。

2点目は、観光・飲食事業では客足が戻り始め、明るい兆しが見えてきた矢先の今回の措置であり、県では事業者への支援策を実施いただくが、飲食店の時短営業に伴い、有期・短時間等で働く方々の、雇止めが危惧されている。事業者への支援と並行して、解雇・雇止めが起きないような事業者への働きかけと、併せて切れ目のない経済対策もお願いしたい。

3点目であるが、2月は高校の受験シーズンであり、受験会場に行く際には公共交通機関を利用することになっているが、体調不良の学生に対してタクシーや保護者による送迎を認めること、特に濃厚接触者等の受験生に対しては、別室や別日での受験を認めるなど、未来ある子供たちに対しての柔軟な対応をお願いしたい。

労働団体である連合愛知としても、感染の急拡大に対して、愛知県の対処方針、基本的な感染防止対策の徹底を周知したい。

大村知事：

感染防止対策の徹底について、周知をよろしくお願ひしたい。

愛知県市長会 相津事務局長：

各市においては、国や県からの要請を受け、3回目のワクチン接種の前倒しを地域の実情に応じて懸命に取り組んでいると認識している。現時点では、ワクチンの前倒し接種が最も効果的な対策だという点については大いに同意でき、この取組をより円滑に進めていくため、以下の3点をお願ひしたい。

1点目は、引き続き、ワクチンの供給量、配分日程について早期かつ徹底的に情報提供をお願ひしたい。

2点目は、前倒し接種を進める上で、交接種におけるファイザー・モデルナの選択希望についての課題がある。どちらかを選別することなく、予約を入れていただけるよう、すでに政府の広報誌等では啓発されているが、県からも積極的な周知をお願ひしたい。

3点目は、ワクチン接種券の発行を含めて、ワクチン接種が思い通り進まないという現状があるとすれば、その課題について、県・市ワクチン連絡協議会等の事務レベルでの場を積極的にご活用いただき、課題解決のためのアドバイスをお願ひしたい。

大村知事：

県・市ワクチン連絡協議会については、頻繁に実施し、情報共有をしっかりと図って意思統一をして対応していきたい。

愛知県町村会 宇佐見事務局長：

第6波が大変厳しい状況になっている中で、ワクチン接種の加速化については、町村としてもできる限り努力を続けていくが、色々な課題が出てくるため、県には丁寧に相談に乗っていただきたい。

また、12歳未満の小児のワクチン接種が始まっていく中で、色々な意向に沿って接種が進むと思うが、副反応等の様々な心配事があると聞いており、しっかりと相談出来る体制を充実していただきたい。

また、諸事情によりワクチンを接種出来ない、接種しない方が一定程度いるが、県では、無料PCR検査等の検査を行っており、そのような仕組みを更に充実していただきたい。

引き続き町村に指導と支援をお願いしたい。

大村知事：

引き続き、よろしく願います。また、ワクチン接種の加速化も願います。

名古屋市保健所 医監：

昨日は1,400人を超える新規陽性者であった。10万人あたりの7日間合計は、昨日時点で201人であり、1週間の増加率は4.9倍で、急拡大が続いている。また、今週に入り高齢者の陽性者が増え、中等症で入院しており、徐々に高齢者の入院患者数が増えているため、医療に与える影響を心配している。

また、濃厚接触者や自宅療養者が救急車を要請する場合は、今週に入ってから増加しており、一般救急への影響も今後出てくると考えている。保育園や小学校等で流行し、子供の陽性患者が増え、救急要請があり、その救急車の行き先が見つからない状況もある。

今後、これらへの対応を名古屋市は進める必要があると考えている。

大村知事：

昨日の新規陽性者が1,400人を超え、これは名古屋市の過去最多である。大変厳しい状況であるので、しっかり連携して対応していければと思う。

豊橋市保健所 主幹：

感染の状況について、第6波は第5波に比べて、約3倍のスピードで感染者が増えている。豊橋市でも軽症者が多く、自宅療養者や宿泊療養施設に入所する方が増えている。体制について、濃厚接触者も含めて、無症状の方も検査する体制であったが、この感染スピードであれば、重症リスクのある方を中心とし、重症化を止めることや、出来るだけなくすことにシフトする方が、現実的である。したがって、経口、点滴による中和抗体薬の早い段階での投与が、感染防止と拡大防止に重要である。

また、豊橋市も若年層の感染者が増えている。感染が拡大する場所を考えると、差があるように見える。感染対策をしっかり行っている場所は拡大しないが、感染対策が欠けていると、感染が拡大する状況になっているため、引き続き、対策をしっかりしていただくようお願いしたい。

ワクチン接種について、1、2回目の接種はファイザー社製が中心であったが、今後、国の供給量を見ると、モデルナ社製の供給が中心であり、交互接種

される方が増える。医療機関の先生方には、ファイザー社製とモデルナ社製を同時に扱うことを安全に対応していただけるように、啓発させていただく。

ワクチン3回目接種については、感染予防もあるが、医療のひっ迫状況を考えると、重症化予防にとっても効果があるため、啓発を進めていく。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

岡崎市保健所長：

岡崎市における新型コロナウイルス感染症の患者発生状況は、第5波が収束していた昨年末は、患者数は0人から2人で推移していたが、正月明け以降、急増しており、新規陽性者は1月18日が95人で、昨日は126人で、過去最多を記録し、まだ増加傾向が続くと想定している。1月12日から18日の7日間の感染者は418人で、1日当たり59.7人である。新規陽性者のうち70歳以上は10人で、1日当たり1.4人である。入院患者数については、1日平均11.4人で増加傾向にある。現時点で、入院患者の中で重症者は0人である。年代別の感染者の状況は、20代が37.4%で最大で、30代、10代という順に多く、10歳未満は1.2%である。一方、70歳以上は2.3%で、若者が流行の中心となっており、症状別では、軽症・無症状が圧倒的に多い。

陽性者のワクチン接種の状況については、2回接種が済んでいた方は60%で、ワクチン接種をしていない方は38.7%ということで、2回接種を受けている方が感染者が多い状況である。感染経路不明者は63%であるが、感染経路が分かっているのは、家族との濃厚接触が22%で、友人との濃厚接触が7.7%で、職場が7.5%という状況であった。

変異株の検査については、検査全体のうちオミクロンが疑われるものが94.4%という状況である。昨年9月以降発生していなかったクラスターについては、1月に入り3件発生している。部活動と放課後児童クラブでのクラスターと、第5波では少なかった小学生の感染と、事業所のクラスターである。また、現在調査中が1件ある。

オミクロン株については、潜伏期間が短くなっていると感じる。また感染力が強く、1人感染者が出ると、家族全員がほとんど感染している。

患者の急増で、積極的疫学調査が難しい状況になっており、重点化を考えて進めている。また、保健所の検査も急増しており、更に支援の増強のため増員を図っているが、限界までフル回転している状況である。

引き続き、マスク、手洗い、三密の回避の徹底を呼びかけるとともに、地域の医療機関と連携し、医療体制の確保、3回目のワクチンの前倒し接種の体制作りに努めたい。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

一宮市保健所長：

感染状況としては、12月2日の週から新規陽性者数は0人であったが、12月23日の週が6人、30日の週が7人、1月6日の週が79人、13日の週が248人であり、中核市になってからの累計は3,853人で、前年度の1,075人を除いても、約10か月で、市民のうち100人に1人が感染したことになる。

保健所では濃厚接触者中心の検査も増えており、12月16日の週は検査が1件で陽性者は0人であったが、23日の週は検査が31件で陽性率6.6%であり、30日の週は検査が75件で4人の陽性者で、1月6日の週は検査が186件で17人の陽性者で、1月13日の週は294件で21人の陽性者となっている。また、入院患者は比較的少なく、市内で入院をされている方は6人で、宿泊施設の入所者数は、昨日の時点で17人となっている。

12歳以上の8月1日以降の感染者のワクチン接種状況について、ワクチンを1回または2回接種されていても陽性となっている方が197人おり、多くの高齢者で、ワクチンを接種していても感染しているという状況である。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

豊田市保健所 専門監：

感染状況としては、昨日までの段階で、直近1週間の新規陽性者が520人で、人口10万人当たり123人である。陽性者の内訳については、10歳代が約3割を占めており、若い年代で感染者が広がっている。感染経路不明が約6割となっているが、徐々に、家庭内や学校での感染も広がっている。昨日時点で入院患者は17人で、うち重症者が1名であるが、他疾患による影響が大きい。全療養者は587人となっており、自宅療養が非常に多く、保健所業務がひっ迫している。

ワクチン接種については、19日の時点での3回目接種はVRS入力分で、5,000回弱である。昨年12月から医療従事者の接種を開始しており、12月23

日に、高齢者施設も接種を開始している。接種の促進に取り組んでおり、本日から一般高齢者の予約を開始し、個別接種は1月24日から、集団接種は2月6日から開始する。接種券については、可能な限り前倒しをして発送出来るよう作業を進めており、関係医療機関の皆様方の協力を得て、全ての方が接種間隔6か月に前倒して接種出来るように準備をしている。2月下旬には高齢者の接種が概ね完了できるように整えている。

大村知事：

接種券の前倒しや、ワクチン接種の加速を引き続きよろしく願います。

今いただいた意見等を踏まえて、愛知県まん延防止等重点措置を、正式に発出させていただく。

県民・事業者の皆様には、愛知県に対してまん延防止等重点措置が適用されたことを踏まえて、さらなる感染防止対策の徹底をお願い申し上げる。

各方面の方としっかりと連携をして、万全な医療提供体制を確保していくことと、ワクチンの3回目接種についても更に加速し、円滑に進めていきたい。

引き続き、県民の皆様方の命と健康を守ることを最優先としながら、社会経済活動との両立を図り、オール愛知でこの感染症の拡大防止に取り組んでいきたい。